

アジア研究教育ユニット（特別経費）平成 29 年度教育研究報告書

事業課題名	第4回 クリエイティブ・サービスにおけるアジア・米国比較ワークショップ
代表者名	原 良憲（はら よしのり）経営管理大学院 教授
事業概要 (600 字程度)	<p>コモディティ化が進む経済において、高付加価値サービスの創出や、このようなサービスを創出できるサービス価値創造人材(サービス・クリエイティブクラス)の特性分析と人材育成への反映は、喫緊の課題である。このようなクリエイティブ・サービスの世界先端地域であるシリコンバレーにおいて、当該研究を進める。UC Berkeley の Prof. Henry Chesbrough (Haas Business School の教授で Open Innovation などの著者)や、Stanford 大学の Prof. Ada Poon 研究グループ (Integrated Biomedical System) との当該テーマの討議ワークショップを行うことを目的とする。あわせて、シリコンバレーにおける先端企業、スタートアップ企業、並び、ベンチャーキャピタル、インキュベータ、アクセラレータ等の調査活動も行う。</p> <p>本活動の実施時期は 2017 年 9 月 16 日～9 月 24 日である。当該学生派遣事業は、2年前にもアジア研究教育ユニット(世界展開力・特別経費)事業として実施経験があり、今回が第4回目の事業となっている。</p> <p>参考文献:小林、原、山内(編)『日本型クリエイティブ・サービスの時代 - 「おもてなし」への科学的接近』、日本評論社、2014 年</p>
成果の概要 (800 字程度)	<p>サービス価値創造人材 (サービス・クリエイティブクラス) の育成は、喫緊の課題である。このようなクリエイティブ・サービスの世界先端地域であるシリコンバレーにおいて、スタンフォード大学における学生の発表討議会、UC バークレー、企業・組織における討議会を行い、シリコンバレーにおける起業家の起業実態や日系企業の事業活動調査を行い、クリエイティブ・サービスにおけるアジア・米国比較を行った。学生の発表内容は、AI と人間の役割、並びに、シェアリングエコノミーの受容性に関する比較分析であった。特に、アジア・日本における高コンテキスト・コミュニケーションと米国における低コンテキスト・コミュニケーションに関する討議が行えた。この結果、当初の事業計画を達成することができた。</p> <p>この活動により、参加学生の勉学に対する意識が高まり、また、経済学部他学生への情報共有も行えた。起業家精神に関する認識も深まった。今後は、グローバルな視点での大学院進学、社会人経験を経たあとの生涯教育、MBA への進学等、キャリアパスに対する行動範囲の広がりが期待される。以下に、参加活動の一端を紹介する。</p>